



勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「三回目のインドブーム」



インド株式市場の代表的指数である SENSEX 指数は、先月の総選挙でモディ首相率いるインド人民党が大幅に議席を減らしたにもかかわらず上昇を続け、とうとう 80,000 ポイントの大台を突破しました。

同指数は、始まりの 1986 年 1 月の 561 ポイントから、過去 38 年半の間に現地通貨ベースですが、約 143 倍になりました。この上昇率は、日本の投資家が大好きな米国の S&P や NASDAQ を大幅に上回っています。勿論日本株とは比較にはなりません。

なぜ、様々なリスクがあるはずの新興国インドの株式市場が、これほどまでに圧倒的に強いのか？私には、現在のインドが 300 年振りの 3 回目のブームに入っていることがその要因に思えます。以下に表にしたのが、それぞれのブームの時期ときっかけ、そしてその後起きた世界の潮流の変化です。表の下はそれらのビジュアルです。

	時期	きっかけ (人気)	その後の世界
第一回	1400 年代	インドの香辛料	大航海時代
第二回	1600~1700 年代	インドの手織り綿布 (キャリコ)	第一次産業革命 グローバル・ノースの時代
第三回	2000 年代	インドの市場と頭脳	インドの黄金時代 グローバル・サウスの時代

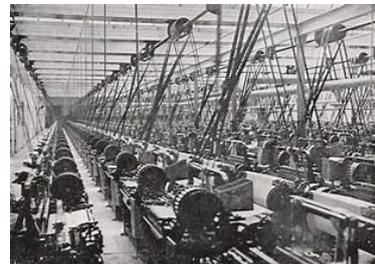
<第一回> インドの香辛料⇒ヴァスコ・ダ・ガマ⇒大航海時代の始まり





<続く>

<第二回> インド綿→インド更紗→第一次産業革命 グローバル・ノース時代の始まり



<第三回> インドの国内市場とグローバル AI 人材  
インド経済の黄金時代→グローバル・サウス時代の始まり



如何でしょうか？皆さん。私は現在起きているこのインドの三回目のブームに大いに期待しています。なぜなら、この三回目こそ、インド経済が享受し、私たちの資産運用に活かすことができる唯一のブームだからです。これからのインドの黄金時代は、短くても 2047 年のインド独立 100 周年までは続くと思っています。